

2-1-5 情報を統合し、問題点を整理する

表5 地域アセスメント統合用紙

調査日時: 年 月 日 時 分 ~ 時 分 天気()
 ()地区 移動手段()
 記載者()

a. 地域に暮らす人びと(コミュニティコア)	
項目	① 地区視診の結果
1. 歴史 2. 人口統計 3. 住民の様子 4. 価値観と信条	(地区視診記入シートの観察内容を左記の項目に仕分けして記入する)
b. 地域を構成している8つの領域(サブシステム)	
項目	① 地区視診の結果
1. 物理的環境 2. 保健医療と社会福祉 3. 経済 4. 安全と交通 5. 政治と行政 6. コミュニケーション 7. 教育 8. レクリエーション	
c. 地域に対する思い・認識	
項目	① 地区視診の結果
1. 住民はどう感じているか 2. 自分はどう感じたか 3. その他の印象	

② 関連するデータ	③ 問題点	④ 優先順位
(左記の観察内容を裏付ける既存資料のデータ・今後必要と考える情報や資料を記入)	(地区視診の結果と関連するデータを照らし合わせ、共通している点、一致していない点から問題点を書き出す) 例:○○が不足, ○○が必要	(問題点の中で着手する優先順位を決める)
② 関連するデータ	③ 問題点	④ 優先順位
② 関連するデータ	③ 問題点	④ 優先順位

(引用文献)

- 1) 日本公衆衛生協会. 平成22年度 地域保健総合推進事業「地域診断から始まる見える保健活動実践推進事業」報告書 地域診断ガイドライン 2011.
- 2) 埴淵知哉, 村田陽平, 市田行信, 平井寛, 近藤克則. 保健師によるソーシャルキャピタルの地区評価 日本公衆衛生雑誌 2008;55(10);716-723.
- 3) 島田美喜(2014). 今なぜ地域診断か? 月刊地域保健(見える使える地域診断), 2014;6;8-14.
- 4) Anderson, E.T., & McFarlene, J.. Community as Partner:Theory and Practice in Nursing, Lippincott, 1996, Philadelphia.
- 5) 金川克子, 田高悦子(編). 地域看護診断[第2版] 東京大学出版会, 2011.
- 6) 狭川庸子, 都築千景, 齊藤恵美子, 金川克子. 地域看護診断における地区視診のためのガイドライン作成の試み 日本地域看護学会誌 1990;1(1);63-67.

A photograph showing a group of people sitting in a circle on the floor, engaged in a discussion or meeting. The image is overlaid with a green tint. The text is centered over the image.

2章 地域を知り, 現状を評価する

2-2 地域の資源(施設, 団体, 人)の把握

2-2-1 SCを把握する

ここまでは、地域のアセスメント、課題抽出の方法について学んできました。ここではいよいよSCに焦点を当てます。個別の事業においてどのようなポイントに注目してSCを把握していけばよいかについて考えます。

様々な視点からSCを把握する

- アンケート調査の結果を使った数値データも重要ですが、質的データ(インタビューなど)も十分にSCの指標となり得ます。
- 既存の組織・活動を整理し、地域の中でのこれらの組織・活動同士の関係性をアセスメントすることも重要なポイントです。

SCの把握というと、大規模なアンケート調査を実施して数値で示すものと思っている方も多いと思います。しかし、それだけが測定方法ではありません。ここまでで示した通り、質的データ(インタビューなど)や皆さんが普段の業務で感じていることも十分にその指標となり得ます。また、地域特性からSCの程度を予測することも可能です。多面的に地域を見ることで、より包括的で正確なSCの把握が可能になります。

指標については、地域(自治体や担当地区)全体についてのSCの状態を表す「全般的SC」と、計画・実施する事業、あるいはグループや組織それぞれのSCの状態を表す「特異的SC」を把握しておくことも有効です(これらは、p.4(1章)で説明されている「公共財」、「準公共財、クラブ財」に相当します)。これらの把握は、事業の準備段階だけでなく、事業の評価としても重要になってきます。

また、計画・実施する事業に関して、地域の既存の組織や活動を整理し、その関係性をアセスメントすることもSC把握の一環です。例えば、組織や活動間の関係性のマッピングは視覚的な把握が可能になります。情報収集が比較的容易なフォーマルな組織・活動だけでなく、インフォーマルな組織・活動まで把握しておくことで、地域の人間関係のあり方やネットワークの実態なども見えてくるでしょう。

例を挙げてみます。乳児を持つ母親の育児グループを立ち上げることになりました。地域の全般的なSCだけでなく、より特異的なSC、つまり子育て世代のSCなどをアセスメントすることも重要です。ただし、既存資料では把握できない事柄も多々あります。その場合には、乳児を持つ母や育児経験者などから話を聞いたり、日常業務での実感などを整理して、情報として活用することができます。



地域には、育児関係の組織・活動は、フォーマル、インフォーマルを含めて既に存在しているはずで、それらとターゲットが似通った活動を立ち上げて効率的とは言えません。地域の既存の組織・活動、およびその関係性をアセスメントし、既存のものとの連携で十分に課題に対応できる場合もあります。もし地域に利用可能な資源がない場合には、地域のSCの状態を考慮しながら、地域の現状に即した組織・活動を新たに立ち上げることとなります。

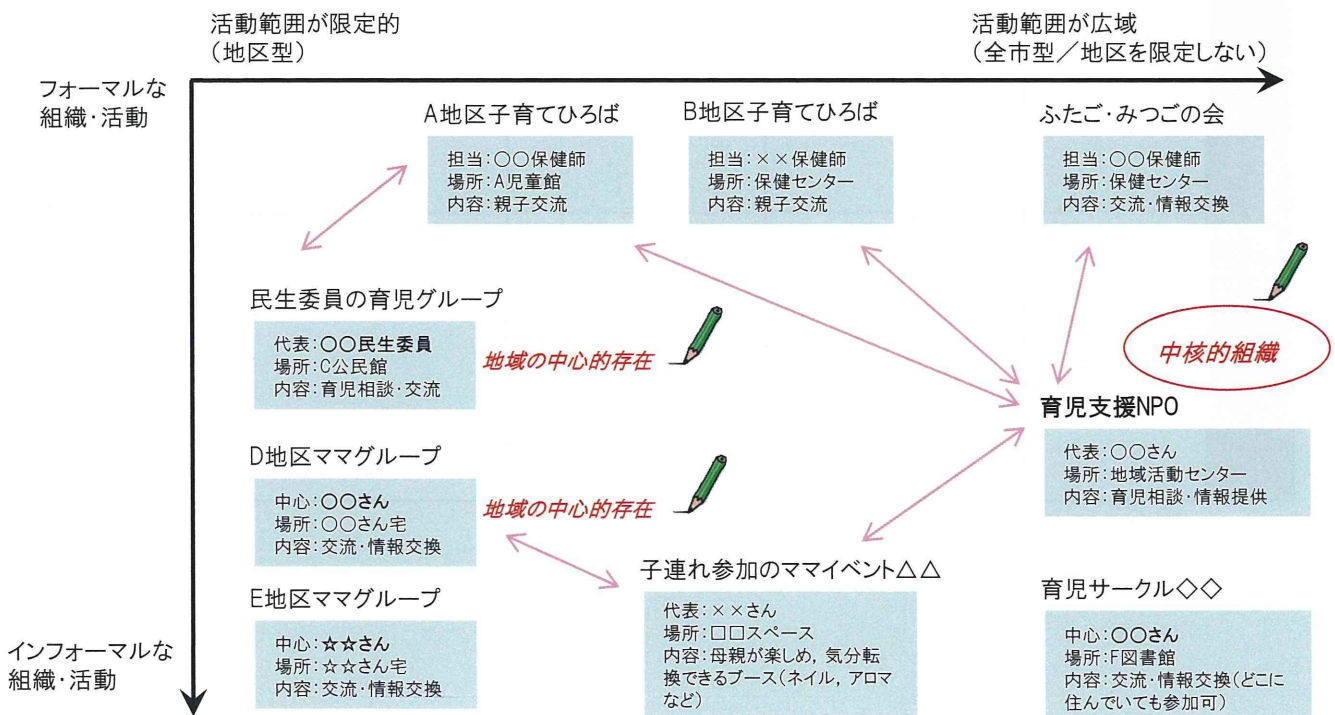
SCの視点

- 情報収集は多面的に行って、より広くSCを把握する。
- 地域のSCを高める方法は、新しく何かを作る(創る)ことだけではない。
→ 既存の組織・活動を整理し、**活動やネットワークの『棚卸し』**をする。

①地域のソーシャルキャピタルの把握

		情報ソース			
		既存資料 (市民調査等のデータや結果など)	インタビュー (住民や当事者の声など)	日常業務の中で感じていること	SCに関する地域特性
全般的SC	主観的指標 (認知的SC)	- 地域のまとまり - 住民同士の信頼感や助け合いの意識			- 人口構成, 人口流動 - 歴史・文化 - 住民の価値観や習慣
	客観的指標 (構造的SC)	- 地区組織活動への参加状況(参加数など) - 近所付き合いの程度	- 近所付き合いの程度		
特異的SC (目的に特化したSC)	主観的指標 (認知的SC)	※既存資料から得られない場合もあります	- 子育て世代内での信頼感や助け合い意識		- 核家族割合 - 育児相談件数 - 育児環境 - 行政の子育て関連施策
	客観的指標 (構造的SC)	- 子育て世代の社会参加度(割合や関心のある活動領域)	- 子育て世代内での付き合いの程度(例:ママ友同士の交流の程度)		

②既存組織・活動のマッピング



2-2-1 SCを把握する

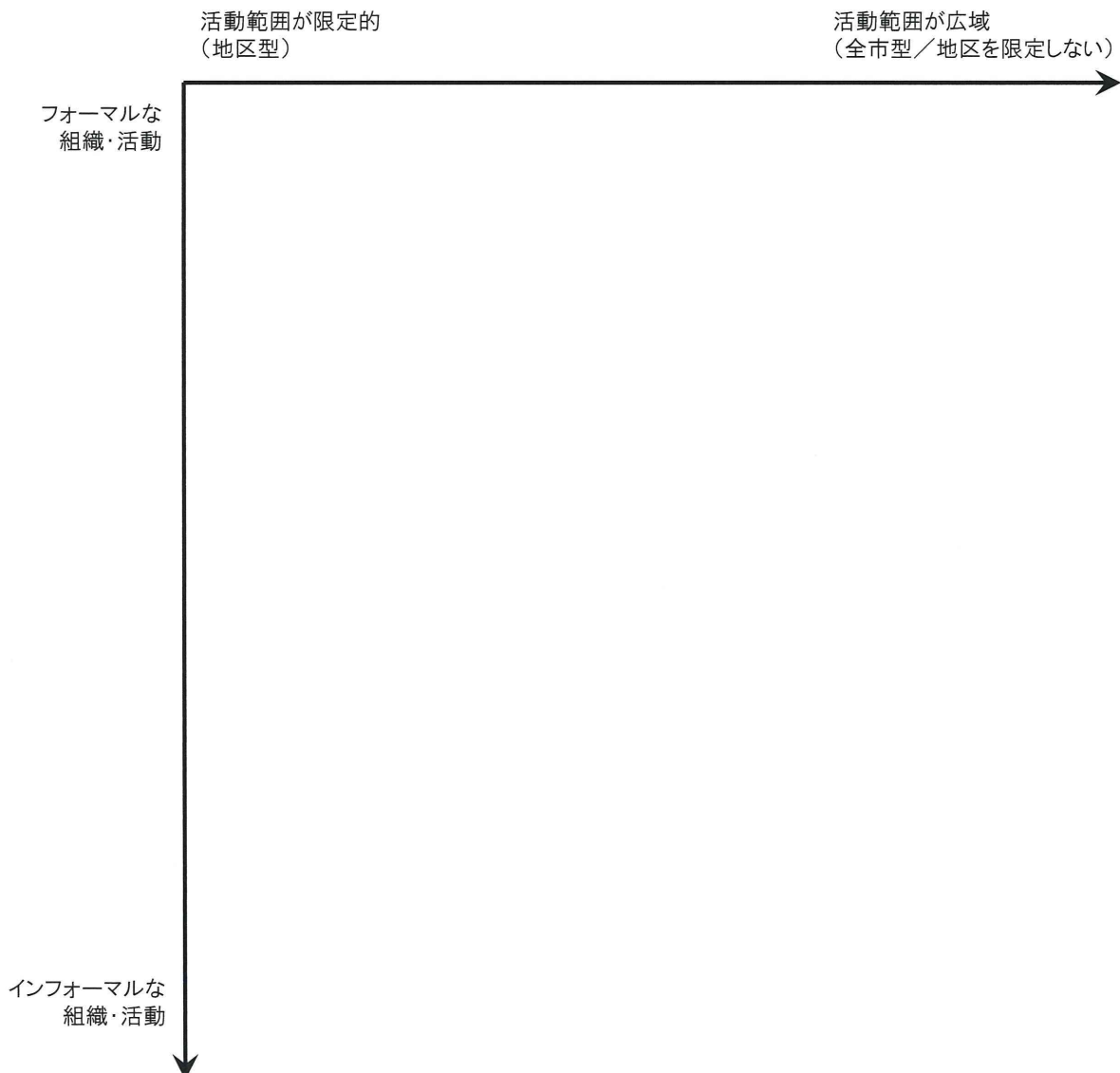
Practice

皆さんの地域のSCを整理してみましょう。また、特定の事業が想定できる場合には、その事業に関連したSCについても整理してみましょう。

		情報ソース			
		既存資料 (市民調査等のデータ や結果など)	インタビュー (住民や当事者の声 など)	日常業務の中で 感じていること	SCに関する 地域特性
全般的SC	主観的指標 (認知的SC)				
	客観的指標 (構造的SC)				
特異的SC (目的に特化したSC)	主観的指標 (認知的SC)				
	客観的指標 (構造的SC)				

Practice

皆さんの地域に存在する既存の組織・活動(資源)を整理し、SCのマッピングをしてみましょう。その組織・活動が、「フォーマルかインフォーマルか」、「活動範囲が限定的か広域か」も考えながら整理しましょう。





3章 事業・活動のすすめ方

3-1 事業・活動の企画

3-1-1 事業・活動の企画に関する理論

事業や活動の実施にあたっては、入念なステップごとの計画やスケジュールが必要であると同時に、事業実施を考えるベースとなる概念についても理解することが重要です。保健師の活動ではPDCAという概念が広く使われています。地域の健康事業やプログラムを実施するための概念には様々なものがありますが、いくつかご紹介します。

1. PDCA

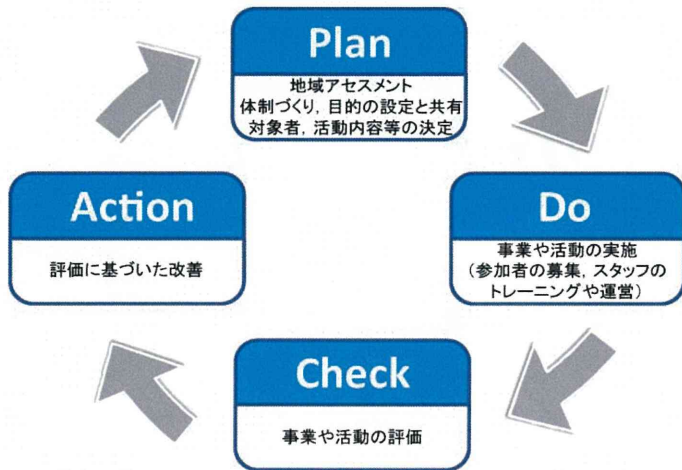


図1 PDCAサイクル

左図のPDCAサイクルは保健師活動において効果的な活動のためのマネジメントツールとされています¹⁾。現在保健活動のみならず様々な事業を実施する上で、PDCAサイクルに基づいた事業の計画と運営から評価まで行うことが広く普及しています。

本マニュアルにおいても、Planに相当する地域アセスメントや、本章での企画の内容から実施、さらには次章の評価などPDCAと同様の流れに沿って提示しています。

2. Ecological Framework(環境的枠組み)

事業の実施にあたっては、事業がどのレベルへの効果を狙ったか、個人レベルから政策までの5つのレベルを見ることによって、複数層への効果も意識させるものです。有効な事業は、個人の意識や行動を変えると同時に、環境である地域や社会、政策などにも影響を与えるものであることが重要です²⁾。

	個人	Interpersonal	組織	地域	政策
目的	<ul style="list-style-type: none"> 知識の提供 意識改革 行動変容 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの実施 実践 ソーシャルサポートネットワークの強化 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの実施 実践 政策 まちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの実施 実践 政策 まちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 規制 法律 政策
手法	<ul style="list-style-type: none"> 情報の提供 教育 トレーニング カウンセリング 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの構築 アドバイザー 互助グループの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 組織改革 ネットワーキング 組織開発 環境改革 	<ul style="list-style-type: none"> 社会変化 メディアの活用 連携の構築 まちづくり 環境改革 	<ul style="list-style-type: none"> 政治活動 ロビー活動 メディア活用 政策アドボカシー 連携づくり

(例) 認知症予防のリーフレットの配布や講演会の開催



地域包括支援センターを拠点にした認知症予防サポーターの養成とネットワークづくり



認知症予防を自治体の中心的事業とした保健福祉計画の策定